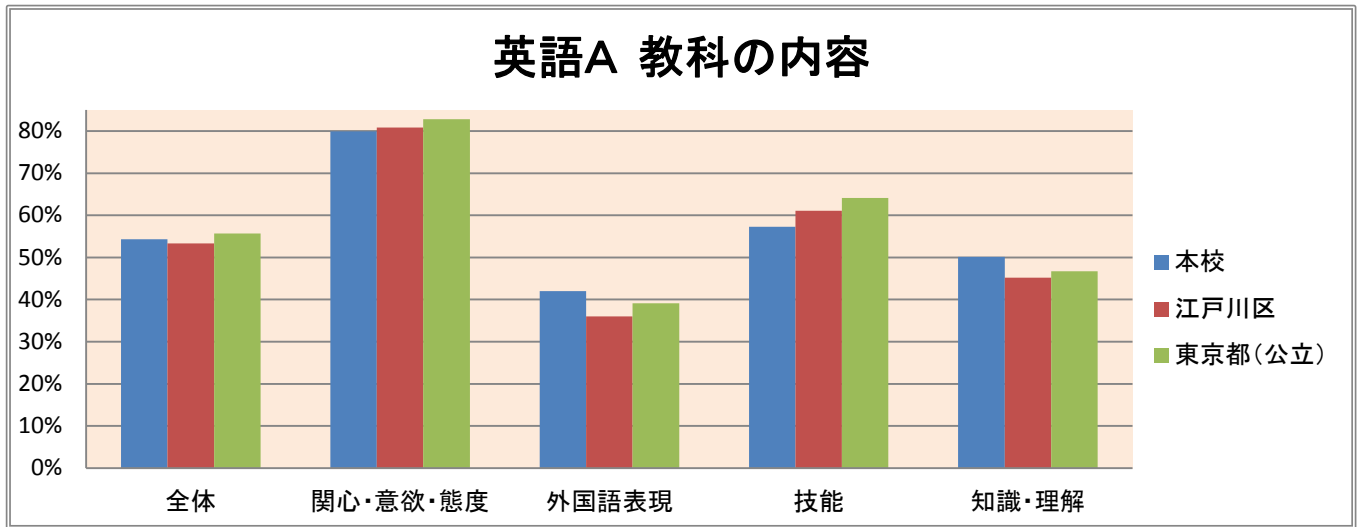


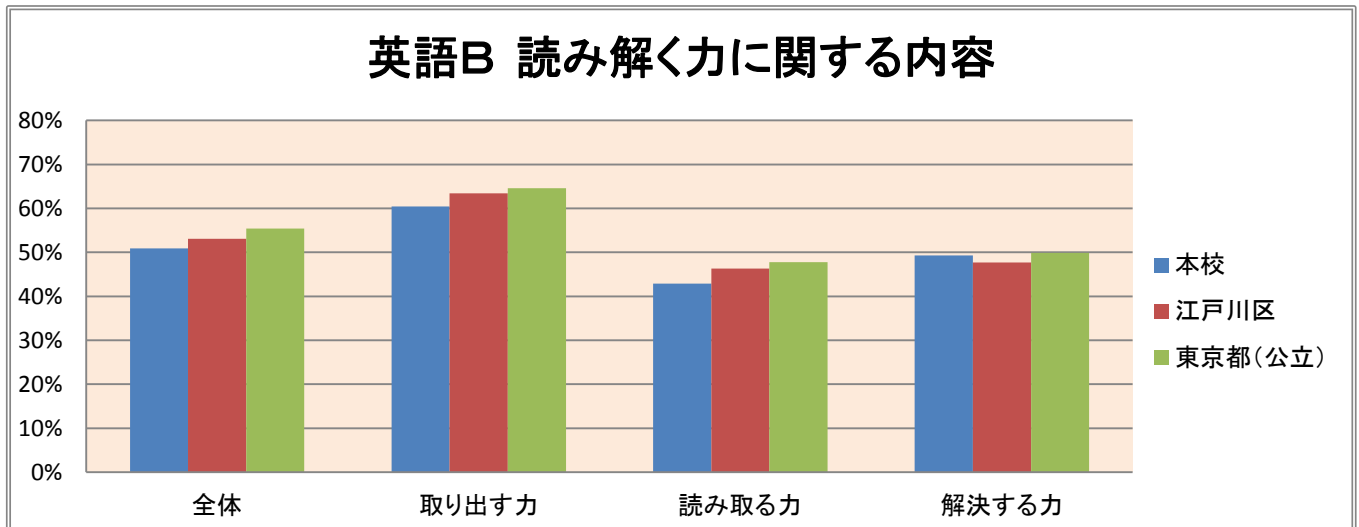
## 1. 分類ごとの平均正答率

## (1)英語A:教科の内容



英語A（教科の内容）に関しては区や都の平均を概ね上回っている。スペリングコンテストやセンテンスコンテストを始めとする基本事項の徹底に力を入れ、パフォーマンステストなどの表現活動を重視した結果と思われる。技能が低いのは、学んだ事項をうまく活用できない結果であり、今後応用力を身につけさせる必要がある。

## (2)英語B:主として活用



読み取る力が区や都の平均を大きく下回っている。読解力が低い結果である。まとまった英文を聞いて理解する力、読んで理解する力を養う必要がある。

## 2. 今後の生活に活かすポイント（正答率が低かった問題）

英語A 教科の内容に関する表現及び知識・理解は区並びに都の平均を上回っているが、英語B 読み解く力に関する内容のうち、特に「取り出す力」と「読み取る力」が区並びに都の平均を下回っている。授業の様子を見る限り、大多数の生徒がまじめに取り組んでいるので、基礎的知識はかなり定着していると思われるが、リスニング問題中のまとまった英文を聞いて答える問題や、長文読解問題の正答率が低いので、今後はそうした問題を授業で取り入れ、読解力を鍛えていく。また長文に関してはあきらめずに最後まで読み、考える粘り強さを養っていきたい。